

秋の保育の實際

- 1 秋に行われてよい観察遊び
- 2 秋の保育計畫
- 3 遊戯『山のともだち』

秋に行われてよい観察遊び

東京女子高等師範學校教授

堀

七

藏

一、身邊の自然と社會

「身邊の社會生活及び事象に對する正しい理解と態度の芽生えを養うこと」が、幼稚園教育の重要な目標である。こゝにいう、「身邊」は、幼兒の身邊であつて、都會の幼兒と農山村の幼兒と大に相異なる。従つて身邊の社會生活及び事象がそれ／＼著しい相異があり、それ／＼具體的なもので、一般的な抽象的なものではない。また「身邊の事象」というのは幼兒の身邊にある事物、即ち幼兒の身のまわりにある自然物、その自然物からこしらえた人工物は勿論、幼兒の身のまわりに起る雨、風、にじ等の所謂、自然現象をひつくるめてのことである。それで身邊の事象とは幼兒が毎日見ている事物現象をいうので凡て具體的なものをいうのである。そして「身邊の社會生活及び事象に對する正しい理解と態度を養うこ

と」は小學校、中學校に於ける教育の目標であるが、幼稚園教育ではその正しい理解と態度の芽生えを養うことを目標となすのである。即ち幼稚園教育では、身邊の社會生活及び事象を正しく理解する芽生え、社會生活をなす態度、事象を研究する態度などの芽生えを養うことにつとめねばならぬ。

さて身邊の社會生活及び事象に對する正しい理解と態度の芽生えを養うには、社會生活を行わしめ、事象を観察させるがよい。社會生活や事象に對してはつきりした認識をもち正しい觀念をもたせることが理解の基礎をなすものである。正しい理解と態度の芽生えを養うのに、いろ／＼な理窟を説明したり、さまざまの知識を傳授するようなことをしてはならぬ。

二、お 月 見

九月にはお月見が家庭でも幼稚園でも行われることが多い。お月見が十五夜満月の日に行われるとしても、その後にお月見の遊びをいろ／＼とさせるがよい。夕方、お日様が入るところから空をながめるようにしむける。夕焼小焼で日がくれるその有様、空の色がいろ／＼にかわる情景、月がだんだんのぼる。その月の形がまい日變化する。空の色と月の光の變化、一ばん星、二ばん星、三ばん星とだん／＼に星がはつきり見えてくる。また雲と月。夕食のお仕度でいそがしい母親でも、子供達が夕暮の空に關心を、もつように仕向けることは容易であろう。幼稚園ではお月見の遊びを行わせることによつて、幼児にお月様やお星様などについての關心を高めることができる。

秋空はれたよいお天氣の日に幼児をつれて、お月見にそなえる、すすき、はぎ、おみなえし、かるかや、ふじばかま、また、えだについたくり、などをとりに出かけるがよい。勿論秋の七草について説明をしたり果物について理窟を教えるようなことはせぬがよい。そしていろ／＼と用意したものを飾つてお月見を仲よく楽しく遊ばせることを九月に於ける保育事項の中心としてもよい。家庭でもお月見を中心として子供達の生活を楽しいものにさせたいものである。

三、秋のくだもの

みのりの秋、とり入れの秋、十月には秋の果物や種子の觀察を中心とした遊びを保育の内容としたい。くりとかき、な

しとりんど、いちぢくにおどろ。など、いろ／＼の果物は幼児のすきな物でしょう。是等の果物がどんなになつているかどんなにしてたべるか。たべるところとたねの關係などに氣をつけさせるがよい。いろ／＼なことを説明するのではなく、どんなになつているかを氣をつけて見させるのである。くりのいがはどんなになつてあるか。いがの中にくりはどんなに入つてあるか。いががわかれて、赤くじゆくしたくりがとび出すことなどを見させるがよい。出来ればくり拾いをさせることよい。くりをたべるにはどんなにするか、くりの皮とじぎ皮、くりをたべるのはたねをたべることで、くりのみとたねとの關係はかきのみとたねとをくらべさせるがよい。かきの皮とみ、ごまとたね、たねのあるなし、ごまとかきの味など、いろ／＼のことに氣をつけてたべさせるがよい。また、りんごとなしもくらべて見させるがよい。りんごの皮となしの皮、りんごの形と色、なしの形と色、並べて見るだけでなく、繪にかかせたりその紙を切りぬいたり、また粘土でこしらえたり、いろ／＼の遊びをさせる。これはりんごとなしに限つた遊びではなく、くりでもかきでも、またいちぢくでもみかんでも同様な作業や遊びをさせるがよい。また家庭で果物をたべさせるときは果物のたべ方について指導するがよい。果物の皮をむくことは、幼児に出来ないから、皮をむいて與える方がよい。お辨當のたべ方の躰をするように、果物をたべさせてそのたべ方の躰をなすことが望ましい。

四、いろ／＼の種子

いろ／＼の種子を集めさせることも面白い遊びである。く
るみやぎんなんを集めるときには、皮の始末に気をつけさせ
ることが必要である。ぎんなんの皮でも、くるみの皮でも、
幼児の弱い皮膚をいためるから特別の取扱をさせねばなら
ぬ。ふじの實は皮がひとりではじけてたねがでるから、そ
のたねを集めておはじきに使つてもよく、またそれをならべ
る遊びをさせて、その間に數觀念を發達させるように工夫す
ることもよい。あさがおのたねは、花の色や大きさによつて
區別して、それ／＼古い状態などに入れ名稱を書いておくよ
うにするがよい。コスモスのたねでも、百日草、千日草、は
けいとなど、草花の種子もまたそれ／＼古状態などに入れ名
前をかき分けてしまつて置くがよい。これらは幼児には出來
ないけれど幼児に手傳わせて、種子の大きさや形などに氣を
つけさせるがよい。

あおぎりの實は面白い。舟のような黒皮のふちに種子がつ
いている。この皮を水にうかべ、その中に種子を積込んでい
くつ入れると沈むかなど、面白い水遊びもできる。

どんぐり拾いも面白い。大きなどんぐり、小さなどんぐ
り、丸いどんぐり、長いどんぐり、いろ／＼などんぐりを拾
い集め、大ききになつて形によつてくわけをすることも、ま
たひごを通してこまをつくり、机の上でこままわしごつこを
すると面白い遊びとなる。

野菜の種子にはいろ／＼ある。つるなしいんげん、つるあ
りいんげん、ふじ豆、枝豆、あずき、えんどう、そらまめ、
らつかせいなど、いろ／＼くらべて見させるがよい。さやの
形と豆の形や大きさ、その色などをくらべて、その見わけを
させ、名前のあてつこ遊びをさせるも面白い。

こま、にんじん、ごぼう、大根、小松菜、こかぶ、京菜、
山東菜、キヤベツの種子をくらべて見させ、その名前のあて
つこ遊びは幼児には多少むづかしいが、面白い遊びであり、
その種子をまいてどんな芽が出るか、栽培させるのも面白い。
すいか、きうり、なす、白うり、まくわうり、トマトなどの
種子、ひまわり、とうもろこし、もろこし、あわ、そば、い
ね、大麥、小麥などの種子もくらべて見させ、その名前のあ
てつこ遊びをさせると面白い。

五、落葉

十月から十一月にかけて、落葉を集める遊びはなかなか面
白い。もみじ、いちよう、ぬるで、はぜ、にしきぎ、かき、
さくら、もも、うめなどの落葉を拾い集めてその形や色をく
らべたり、それらを並べて模様をこしらえたりまたはつばの
名前のあてつこ遊びなど大變面白い。殊にもみじやいちよう
の葉で面白い模様の圖案が出来る。きりやあおぎりの葉柄、
藤や、大豆の葉柄、葛の葉の柄などを利用して、いろ／＼の
細工物ができる。幼児には多少むづかしくとも眞似てつくら
せると面白い遊びとなる。

落葉をかき集めて堆肥を作つたり、またたき火をして灰をこしらえ、それを畑の作物に與える作業は、勿論、大人がすること、幼児には出來ない。

しかも是等大人の作業をよく見させたり、幼児にも出來ることを手傳わせることはまことに望ましい。

六、種子

どこの幼稚園にも空地があるから、なるべく利用して畑をつくり、種子まきをして、野菜物を栽培するがよい。關東地方で九月から十月にかけて種子まきをする野菜を擧げると、次のようなものである。

京 菜	九月上旬から下旬
小 松 菜	十月上旬から下旬
玉 葱	九月中旬から下旬
人 參	九月下旬から十月
玉 ち し や	九月上旬から下旬
春 大 根	十月上旬から下旬
體 菜	九月下旬
え ん ど う	十月上旬から下旬
そ ら ま め	十月上旬から下旬
白 菜	九月中下旬
大 阪 白 菜	十月上旬
甘 藍	九月中旬から十月上旬
廿 日 大 根	九月上旬から十月上旬

小 か ぶ	九月上旬から十月上旬
ほうれん草	九月中旬から十一月中旬
春 菊	九月下旬から十月下旬
牛 蒡	九月中旬から十月中旬

これらの種子まきからいろ／＼の人手、虫とり等の作業は、勿論、幼児には出來ないけれども、大人の作業は、勿論、幼児には出來ないけれども、大人の作業するところをよく見せたり、また手傳わせたりするがよい。野菜を食う青虫などをとつて別に飼育して、さなぎとなつて冬をこす有様を観察させると一層有益である。

野菜物を栽培する作業を出來るだけ手傳わせることは、是等の作業に對する理解の芽生えを養うことになり栽培してあるものと雑草との區別が自然にわかり、徒らに草花をちぎつたりするようなことがなくなる。幼児の破壊本能を誘導するに細心の注意を拂うことが大切である。

七、稻のとり入れ

農村の幼稚園では稻のとり入れ作業をよく見させるがよい。どんなにして稻をかりとるか、かりとつた稻をどんなにするか、稻をほすのにどんなことをするか、稻からどんなにして粃をとるか。稻わらはどんなにするか、粃からどんなにしてお米にするかなど、いろ／＼と説明するのではなく、農夫が作業する有様をよく見させるのである。そしてお米がどんなにして御飯となるか、農耕生活に對する正しい理解と態

度との芽生えが自然に養われるように仕向けねばならぬ。

稲作については、よく見せるだけに止まるが、おいも堀りなどは成るべく幼児にも行わせる工夫が望ましい。幼稚園でさつまいもを栽培したものがあれば最も望ましいが、さもないときには工夫して幼児においも堀りをさせるがよい。幼児には勿論十分なことは出来ないが、おいも堀りでも落花生でもまた牛蒡や人参、大根、かぶ、菜類などの採集でも、成るべく手傳わせるがよい。出来ないから手傳わせるのである。これ等の作業を手傳うことによつて、幼児は生産喜悅の情を味うことも出来、また生産作業に對する正しい理解と態度との芽生えを養うこともできよう。

八、秋の野菜

十月から十一月にかけて野菜しらべを中心にした遊びをさせるがよい。さといもとじやがいもとさつまいもをくらべて見させる。どれがさといもで、どれがじやがいもか、またさつまいもかをはつきり見分けができるように見くらべさせて、そのちがつたところを見つけ出させるがよい。同じさつ

秋の保育計画畫

まいもでも、太白や農林一號、護國、沖繩一〇〇號など、品種によつて、いもの形も色も味なども相異なるが、どれもさつまいもであることがわかればよい。またじやがいもにも農林一號、紅丸其の他の品種があり、さといもにも八ツ頭、唐のいも、赤芽、高砂などの品種があるが、それ等については勿論幼児には區別をさせることは出来ない。しかしいろ／＼あること位は見くらべてそのちがいを見付け出させる遊をさせるがよい。大根、かぶ、にんじん、ごぼう、玉葱、冬葱、小松菜、白菜、體菜、京菜、ほうれん草、キャベツなども、いろ／＼とくらべさせてそのちがつた點を見つけ出させるがよい。實物を見くらべさせてそのちがつたところをできるだけいわせると面白い遊びとなる。

是等の野菜類は單に見くらべさせるだけでなく、たべくらべをさせることが出来るで一層よい。また繪に書いたり粘土で細工したりしたものを發展させて八百屋ごつこを遊ばせることも望ましい。單に野菜物ばかりでなく、果物についても、また種子物などについてもごつこ遊びをさせることができよう。

秋は一年の中で一番季候もよく子供に強いはり切つた健康

東京女高師附屬幼稚園

吉田ごみ子

をぐんぐんと盛り上らせてくれる時です。夏休みが終つて集